

## 日系社会との連携

日系社会との絆をさらに強く

中南米には世界最大、約213万人の日系人コミュニティが存在し、日本との強い絆となっています。

JICAは、戦後の国家政策による中南米などへの移住者に対する支援を実施してきました。近年は日系社会の世代交代に対応した協力と連携強化に重点を置いています。



ブラジルのアリアンサ移住地の開拓の様子がわかる、海外移住資料館の展示。リニューアルで3D写真が撮影可能に[写真：弓場稔子]

の研修員は、岐阜県可児市国際交流協会での研修を通じ母語教育手法などの学習支援について学びながら、多くの日系人児童の学習を手助けするなど、その様子は地元テレビ局で放映され、話題となりました。

### ビジネスシンポジウムやオンライン・対面での支援など、連携と協力を継続

全世界の沖縄県系人が5年に一度集まる世界のウチナーンチュ大会の共催企画として、2022年10月、中南米地域のウチナーンチュと沖縄がビジネスでつながる未来を目指す「OKINAWA TO 沖縄：ビジネスシンポジウム」をJICA沖縄で開催しました。ボリビアのオキナワ移住地、またペルー進出を目指す県内企業から講演者や発表者を招き、海外・県内有識者によるパネルディスカッションを開催し盛況を得ました。

また、2022年度は、日本で暮らす約30万人の日系人が抱える課題に目を向ける、オンライン公開セミナー「多文化共生・日本社会を考える」を11回開催し、延べ2,202名が参加しました。そのほか、海外日系人の中・高・大学生を対象としたオンラインプログラム(計31名)、技術習得を目的とした日系社会研修(計152名)、日系人大学院生10名の就学支援も実施しています。

コロナ禍の影響を受け、2020年3月から現地での活動を見合わせていた日系社会青年海外協力隊員なども順次派遣を再開し、2022年度末時点で32名が活動中です。

### 海外移住資料館20周年：

#### 多文化共生、SDGsが学べる資料館へ

2022年、開館20周年を機に常設展示を大幅にリニューアルした海外移住資料館では、国内外の日系社会の変遷・現状の展示を充実させるとともに、教材の整備なども含めて、日本国内での多文化共生の実現やSDGs達成に向けたメッセージを地方自治体や教育関係団体へ発信しています。2022年度は、コロナ禍にあった前年度の2倍以上に当たる約4万人に来館いただき、オンライン講演会も9回開催し、約900名の参加を得ました。

### 国内の日系社会を中南米日系人研修員がサポート

コロナ禍で制限されていた来日しての研修も2022年度に再開。2021年度に開始した「日系サポーター」研修※では、初めて計16名の来日が実現し、対面での日系人へのソーシャルワークなどに取り組みました。なかでも来日第一号

※ 中南米在住の日系人が、日本の地方自治体などの多文化共生事業に協力しつつ、その業務を学ぶ研修。